東芝未来科学館オープン記念
東芝1号機ものがたり

Toshiba First-of-Their-Kind Products Incorporating Spirit of Technology Innovation
— Inauguration of Toshiba Science Museum

巻頭言

時代を切り開いた技術を伝承する

Toshiba Science Museum Passing Leading-Edge Technologies on to Next Generation

中山　純史
NAKAYAMA Junji

電気というものが，世の中で最初に利用されたのは電信からで，わが国でも1873年には長崎と東京の間でつながりました。その後，電気の利用が本格化したのは白熱電球の誕生からです。照明は文明生活に不可欠なものであり，まさに近代の始まりでもありました。白熱電球の電力を賄うために発電事業が芽生え，多くの発電機が必要になりました。更に電気の活用は広がり，電気車両やエレベーターなどに展開されていったのです。

東芝の創業者のひとりである田中久重が東京に出てきて，電信機を作り，その後銀座に店舗兼工場を構えたのが1875年で，それが当社創業の年となっています。更にもうひとりの創業者である藤岡市助が白熱電球の製造販売を目的とする合資会社白熱舎を設立したのが1890年です。それ以来，現在に至るまで飽くなき探究心と情熱を持ち，歴史に誇れる技術や製品を多岐にわたり開発してきました。まさに当社の138年の歴史が電気及び電子産業の歴史そのものです。東芝科学館は，時代を切り開いてきたこれらの技術を伝承する役目を担ってきました。館内に常設した1号機ものがたりのコーナーでは，当社の歴史を作ってきた数多くの1号機の実物を保存し展示するとともに，それを生み出すために諸先輩たちが飽くなき探究心と情熱を傾けた物語を本としてまとめて出版するなどの活動も進めてきました。

東芝科学館は2013年9月末をもって閉館し，2014年1月末に新たに東芝未来科学館として，当社のスマートコミュニティセンター（2013年10月末，JR川崎駅西口のラゾーナ川崎地区に開所）内にオープンしました。1号機ものがたりのコーナーも創業者の部屋とともに移設しています。ひとりでも多くの来館者にそれらの歴史を，そして情熱を体感していただければと願っています。展示物から先人たちの情熱とメッセージが伝わってくるはずです。

今回のオープンを機に，新たな視点から東芝1号機ものがたりを特集することにしました。各部門を代表する1号機を取り上げ，現在も製品を支える技術のDNAの解説から，その技術の系譜や最近の成果までを，1号機を作った当時の技術者でなく，現役の技術者が現代の視点から論じるのはたいへん興味深いところだと考えます。1号機という時代の“点”から現在までをつなぐ“線”又は“広がり”としてのストーリーの奥深さや，1号機どうしの意外な関連性など新たな発見があるはずです。

東芝未来科学館長　Toshiba Science Museum